

会議録

- 1 開催した会議の名称 第3回佐賀県子ども施策推進協議会
- 2 開催日時 令和6年11月1日（金）14時00分～15時30分
- 3 開催場所 佐賀市青少年センター大会議室（佐賀バルーンミュージアム3階）
（佐賀市松原2丁目2-27）
- 4 出席者 松山会長、春原副会長、森島委員、川原田委員、高尾委員、飯盛委員、
山本委員、橋口委員、谷口委員、西川委員、東島委員、平尾委員、
木村委員、山田委員、西村委員、庭木委員、石橋委員、小林委員
事務局 県男女参画・子ども局 宮原副局長、陣内政策企画監
県子ども未来課 千綿課長、松本副課長、牛島副課長、久家係長、
川崎係長、山下主任主査
県子ども家庭課 末次課長、山口副課長、諸江副課長、
橋本係長、権藤係長
県男女参画・女性の活躍推進課 武村参事
県障害福祉課 平野副課長
県学校教育課生徒支援室 山崎指導主幹
- 5 議題
子ども施策実行計画について
- 6 会議概要
 - (1) 開会
 - (2) 挨拶（宮原副局長）
 - (3) 子ども施策実行計画について
＜資料3～7により事務局から説明＞
 - (4) 意見交換
 - (5) 今後のスケジュールについて
＜資料8、9により事務局から説明＞
 - (6) 閉会

○意見交換

<資料3による事務局からの説明を受けて、出席した委員からの発言>

指標「海外からの留学生受け入れの数」について

(委員)

留学生の数は。高校なのか中学なのか。

(委員)

県の事業として受け入れているのか。ロータリーやライオンズなどから来ている人も含まれているのか。

→他所属の所管となるため、確認次第後日連絡する。

<資料4～7による事務局からの説明を受けて、出席した委員からの発言>

(委員)

子育てし大県の主語は何か。

(こども未来課)

「子育てし大県“さが”」というのは知事が県民の方から子育てが楽しいと思えるような県にしてほしいという思いからできたプロジェクト。実際は子育て当時者だけではなく、こどもたちが自分で考えて挑戦してということも子どもたち目線の取組なども行っている。こどもが骨太に育って、それを保護者の方々が見ることで子育てが楽しいと思えることで、両方にかかっている。また、社会全体としてこどもたちを育てる。そういう形で子育てしたい環境が整っていることを目指している。

(委員)

誰がというところだが、いちばんは佐賀の人という所があると思うが、佐賀県としては佐賀県民以外の、関東や東北の人など、全国に向けて佐賀で子育てしたいと思ってもらえる県みたいに、あえてそこはぼかしておいたほうがいいかと思う。

(こども未来課)

実際子育て世帯の移住者も増えていて、20代～30代で6～7割。40代まで入れると8割ぐらいいる。県外からも子育て世帯を呼び込めるというのができてくるとよいと思う。

<資料全体に対しての意見、質疑応答>

(委員)

説明の中で市町と連携していくという言葉がよく出てきたが、市町との連携は大事。財源の大きい小さい市町で、佐賀県で生まれても子育ての施策が全然違う。市町の本気度が出てこないといふ県が計画を作ってもこどもたちやその保護者にはなかなか届かないのではと思う。市町との連携について聞かせてほしい。

(こども未来課)

市町との連携は県も大事だと思っている。子育て支援事業は市町が実施主体。市町会議などで取組や好事例を共有し引き続き様々な支援や補助制度を活用してほしいと言っていく。また、施設整備に関しては、申請している所で採択されないところがあれば国に政策提案で補助金を要望するなどできるところはやっている。実行計画の素案を共有しながら、県の取組や施策を共有しながら進めていきたいと思っている。

(委員)

若年層の生活困窮者の住居確保について、市町で相当な格差が出てきている。実際は生活困窮者の自立支援事業を生活困窮者自立支援法に基づいた住居確保のための支援金が出るが、それに該当しないケースがかなりある。さらに一時生活支援事業について県は率先して施策化をしていただいたが、対象が町村部に限られていて他の市には届かない。これは是正する必要があると思う。県が一定程度、制度の狭間を縫うといったことをやっていくことが必要だと思う。

(こども未来課)

制度はあるが狭間に落ちている子がいるということで、佐賀県はその狭間に落ちないような取組を寄り添い支援という形で行っている。手がまだまだ届いていない状況かもしれないが、例えば谷口委員の所でアウトリーチの支援をしていただいていることや、こども家庭課で行っているヤングケアラーなど、様々な支援が充実・確保してきている。まだ足りないところがあれば、もっと検討していかないといけない。今後もお知恵をいただければと思う。

(委員)

市町は生活保護受給者を減らせ減らせとの圧力が強い中で、県が音頭をとっていただいて各市町から拠出金を出して、一つ大きな一時生活支援事業、県全体をカバーできるものを作るとか、そういった音頭をとるということは県がやっていただかないと、市だけでは限界がある。制度の狭間、運用面を変えるといったところをぜひご検討いただきたい。

(委員)

これからのキーワードは人材確保と質の向上。質の向上のために県がリードしている研修会や参加しやすいワークショップなどを計画してほしい。保育団体と大学も連携して人材確保に向けての動きが出来つつある。幼児教育に携わる仕事の素晴らしさ、そのための大学の情報など、小学生や中学生まで声をかけていく必要がある。

(こども未来課)

人材確保・質の向上は大事なもの。人材確保については、「保育士養成施設や関係団体と連携し、中高生や保育士養成校施設の学生への保育の魅力発信を行い、県内の保育施設の人材確保につなげます」というところで、記載している。前の次世代支援地域行動計画の中にはこのような文章はなかったかと思うので、県でもしっかりと認識を持って考えている。県だけではできないので、保育団体、養成校と一緒に連携しながらやっていきたい。養成校の方からも人材育成の話や学生さんたちの認識などをぜひ聞かせていただきたい。

(委員)

保育の人材確保は大きな問題。学生に、潜在保育士に対するアプローチに加え、昨年中学生向けのこどもとのふれあいのためのハンドブックを作られた。計画の中にはこどもが体験して学んでいくという記述が多々ある。こどもが体験する中で子どもが自分の人生どう選ぼうという所に回ってくるような気がする。そういった人材確保の方向を皆さんで考えられたらいい。それは、保育園・幼稚園や養成校や県が一緒になってやっていくものと思っている。

(委員)

市町が関わるものが多いが、協議会の日程のお知らせが来るのが急なため、市長会や町村会代表の委員が本日欠席されている。できれば市長会・町村会代表の委員が協議会に出て、市長会などで議論をしていただくと、知事と市町の長たちの話題につながっていくのではと思う。

(こども未来課)

次回協議会が3月なのでなるべく早めに照会させていただいて、参加いただけるように対応したい。

(委員)

不登校の問題がかなり深刻。佐賀県は幸いその中で何らかの支援に繋がっていることものの割合は全国トップクラスなので、関係各課の尽力が効果として目に見えてきている。一方で小学校の不登校が圧倒的に増加。マンパワー不足の問題。さらに、こどもが不登校になることで保護者の仕事や経済的な問題にも波及している。フリースクールなど民間での運営も含めて多様性を持たせてしっかりと受け皿の拡充をしていく必要。また、働く人が減っている。子ども・若者総合相談センターや若者サポートステーションで支援した子は9割以上県内で就職している。地域から支えられると地域に感謝と愛着が出るので、佐賀を支えたいというふうになる。いい循環を生むための施策展開を一緒に考えていけたらと思う。

(こども未来課)

新たに何かを付加するというのは、この場で何か出せる状況ではないが、「子育てし大県“さが”」などいろんな事業をやっているの、組み合わせができるものがあれば関係課と共有・連携しながら進めていくことはあると思う。

(委員)

不登校支援について。例えばフリースクールを利用される場合、親が送迎できない、費用を出せないという話を聞く。学校の周りにそういった多様な学びの場があればいい。問題を抱えるこどものほとんどは家庭に問題がある。児童相談所も一生懸命してくださるが、ほとんど家庭に戻される。学校だけでこどもたちのよくない連鎖を断ち切るのは難しい。生徒指導提要在令和4年度に変わり、言うことを聞かせる教育ではなく、こどもたちが主体的に自分の人生を歩いていくことを重視するものになったので、私たち教職員も意識を変えていかなければならない。また、研修会をしても参加されるのは、意識の高い方。本当に聞いてほしい方々には届きにくい。

(委員)

こどもの命を守るという根本的なところに防災や感染症の文言が今後入る方向での検討をされるのか。放課後児童クラブの安全計画について巡回を行っているが、地震に関してまだ備えができてないところもある。こどもの命を守るための防災をますます強化するような形で検討いただきたい。

(こども未来課)

実際どういう形で入れるかというのは、お話を聞きながら考えたい。

(こども未来課)

今いただいたご意見を含めて検討させていただく。県内の災害は保育所でも一昨年唐津で被災した箇所があって、今は災害復旧されて仮園舎のほうで園を運営されている状況なので他人事ではなく、たいへん大事な視点だと考えている。

(委員)

いろんなご意見が反映された形で新しく実行計画が出来上がってきたのだと思うが、みんなが参考にするものになると思う。これを市町の方が見て、こういうことを頑張っていてやっというと思える内容になっているのか、いろんな現場の問題があるのはわかったうえで、そういったことに関連する文言がきちんと入っているのか気になる。そこで抜けがあると次のステップでだんだん煮詰まってく中で、県の方が大変なのかな、大丈夫なのかなと思う。

○今後のスケジュールについて<資料8、9により事務局から説明後、閉会>